

桐生市長

荒 木 恵 司 様

民 間 活 力 を 活 用 し た 施 策
に 関 す る 提 言 書

桐生市議会経済建設委員会

民間活力を活用した施策 に関する提言書

世界的規模でSDGs達成に向けた取り組みが行われる中、D&I（※1）という考え方が急速な広がりを見せている。各地方自治体においてはそうした「変化」を真摯にかつタイムリーに捉えながら、静かながらも力強い「地域再生」に向けての様々な創意工夫への取り組みが急ぎ求められる。

しかしながら、生産年齢人口の減少や超高齢社会の進展により、各地方自治体の財政運営は一層の厳しさを増すことが見込まれており、桐生市にあってはもはや「待ったなし」の喫緊課題に陥っている。今後ますます複雑・多様化していく社会課題や地域課題に対応をしていくためには、多様な主体との協働・連携の強化による、オープン・イノベーションの推進と、効率的かつ適正な財政運営の推進が不可欠である。

かつてないこうした社会状況の変化に直面をする中、効率的かつ効果的な手法のひとつとして、SIB（※2）やPFS（※3）といった、「成果連動型民間委託契約方式」を導入したことで、着実な実績につなげることでできた好事例を全国において多く確認することができた。

本委員会はこれまでににおいて、大阪府堺市や滋賀県東近江市、群馬県高崎市における先進事例の研究等をとおして協議を重ね、こうした新たな手法を柔軟かつ積極的に取り入れていくことは「桐生の未来への投資につながるもの」、として委員全員の意見一致を得たことより今回、積極的な事業展開を要望し提言とする。

本提言書が今後の桐生市の発展に大きく寄与する施策の一助になれば、と考えるものである。

令和5年1月23日

桐生市議会経済建設委員会

委員長 園 田 基 博

副委員長 石 渡 宏 明

委 員 飯 島 英 規

委 員 田 島 忠 一

委 員 北 川 久 人

委 員 新 井 達 夫

委 員 周 藤 雅 彦

※1：D & I …ダイバーシティ&インクルージョンの略。多様性および包括・包含の意。
多数派や少数派を区別せず、あらゆる人を含んだ見方や考え方。

※2：S I B …民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施しその事業
成果(社会的コストの効率化部分)を支払い原資とすることを目指す。

※3：P F S …行政課題の解決に対応した成果指標を設定し、成果指標値の改善状況に
連動して委託費等を支払うことにより、より高い成果の創出に向けたイ
ンセンティブを民間事業者に強く働かせることが可能となる、新たな官
民連携の手法。

政策提言事項（民間活力を活用した施策について）

桐生市においては既に、桐生新町重伝建地区と桐生が岡公園の一体的かつ歴史的環境に配慮をした都市再生整備計画を進めることにより、歴史、伝統文化を活かしたより一層の観光振興と地域活性化の実現を果たすことを目指した「都市再生整備計画『桐生市歴史的風致維持向上地区』」が令和2年9月に策定され、古来育まれてきた地域の特徴とその独自性を反映した、総合的なまちづくりの計画が現在推進中にある。歴史的に見ても桐生市は町民が主体となり町立てが行われてきた。桐生特有の活力あふれる産業と永い歴史の中で洗練されてきた文化が織りなす、ゆとりと潤いのある「粋なまち桐生」の実現に向けて民間活力の活用は必須であり必然であると考えている。

そうした中、地域に暮らす住民や来訪者等、多くの人々が行き交い、憩い、遊び、運動をし、時に防災等も含めた様々なコミュニケーションを生み出す「地域の庭」とも言える市内多くの施設については依然、長きに亘りその仕組みや姿をなんら変えてきていないケースが多く散見される。

桐生市が現在有する市有施設や事業をひとつずつ見つめ直し、その潜在力や可能性を見出し、「桐生の未来への投資につなげる」改善施策のひとつとして、下記の事項について新たに提言をするものである。

記

1. 桐生市が有する各公園施設、特に集客力が見込まれる桐生が岡遊園地、南公園、吾妻公園及び水道山公園などについて、その立地や規模に応じた利活用案の調査をそれぞれ徹底して行うこと。
2. その利活用案検討にあたっては、早い段階でその活用方法について民間事業者からの広い意見や提案も聴取する「対話」を通し、潜在力の把握や将来的に参加のし易い条件等を正確に把握するための、「公募型サウンディング型市場調査」を実施すること。
3. 付加価値を増し、各施設や事業の「質」の向上を図ることを第一にすると共に、SIBやPFS等、こうした新たな手法を柔軟かつ積極的に市政運営に取り入れ、民間ノウハウと資金の活用による財政負担の軽減を図ること。
4. 民間活力を活用するにあたりアクセス等、周辺環境の整備も視野に入れ取り組むこと。
5. 各施設が観光資源や憩いの場として地域の活性化につながり、かつ回遊性に寄与するものとする。

以上